

大丈夫よ！ お母さん！

vol.33

教育コーディネーター 中西美沙子



(今回のテーマ)

柔らかな感覚を 探して

心がざらざらする時があります。それは時代が醸(かも)し出す「嫌なもの」に、心が反応するからでしょうか。平和憲法がなし崩しにされ、原発再稼働も多くの人たちの考えを無視するように行われていきます。そこから生まれる焦燥感が、心をざらつかせるようです。しかし時代が私たちにもたらす不穏な感覚だけではない、別の立ちも感じるのです。

この間、魅力のある小さなお店を訪ねました。私の教室の生徒K子さんの紹介です。K子さんは知的好奇心に溢(あふ)れた3児のママですが、シンプルなおしゃれがいつもすてき。教えていただいたそのお店には、リネンやコットンなどの天然素材を使ったお洋服や、アクセサリー、手作りクッキーなどが並んでいました。お店を「おどか」な女性が切り盛りしています。「おどか」は、細かいことを気にせず、おっとりとしたという意味ですが、彼女はその言葉に重なるような人でした。

一時、「手作り」がはやったことがあります。その頃、手作りなら何でも良いものという思いに、私は少し違和感を抱いていました。手で作られたものが必ずしも人の心を柔らかくさせる、とは思えなかったからです。

そのお店は、商売を中心に置くのではなく、同じ世代のお母さん方と触れ合うことを楽しんでいるようでした。そこには活気というよりも「穏やかなシンパシー」のような気分が流れていました。

本屋さんに行っているような本を手にとると「何かが変わり始めている」という思いが起きます。住宅や食べ物、美術などの雑誌には、「人間らしさ」を意識したものが感じられます。その「人間らしさ」の向こうにあるものは、私たち現代人のいらいら立ちなのだと思います。

たくさん溢れているのに幸福ではない。何か違う。そういう思いの人は多いでしょう。その思いをたどってみると、すべての「もの」や「こと」が、一つの方向

に向かっているのでは、という感覚に行き当たります。

子どもの風景を見ていると、一人ひとりの子どもの違いにひかれます。せつかな子。のんびりやさん。怒りんぼや泣き虫や怖がり。どの子も、どんな形も、掛け替えのないものです。しかし今の時代は「良い子」というあり方だけを求めているような気が、時々する。「良い子」は親や先生のいうことをよく聞く子で、そこから外れた子どもは「悪い子」となるのでしょうか。そのようなレッテルが、当たり前のように貼られているのを見ると、これから摘みとられていくような痛みすら感じるのでした。

私の訪ねたこのようなお店を始めとして、「人間らしさ」をイメーজさせる小さなお店が増えています。大きな流通機構で生産される物ではない、温かみのある物やそこに関わる人々たちを、今のお母さんたちは直感的に求めているのでしょう。

私は古い布が好きです。日本の物も。世界の物も。シルクロードの国々の、100年も150年もたつたキリムは特に好きで、私のお教室にもタペストリーのように飾っています。それらの布を見ていると、一筋の糸を撚(ね)る人の姿が見えてきます。その糸を結んで織ってゆくと、柔らかな布が生まれます。藍や紅花、朽木を染めると、青や赤や茶の色が物語を織るように言葉を語り始めます。そんなとき私は、今、失っているものの痛みを向こうからやってくるものを感じます。「これで良いのよ」という聴こえない声が、聞こえてくるのです。

Profile

教育コーディネーター
中西美沙子

静岡大学客員教授。文章教室「スコレ」画廊「キューブブルー」などを主宰。文章教室は書き方を教えるだけではなく、生き方や考える視野を学ぶところです。

☎ tel 053-456-3770

中西美沙子

検索



ピアノシモでね

中西美沙子 著

著書の「ピアノシモでね」(東京書籍)は、中日新聞に掲載された人気コラム「つかまえて!こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。(税込1,500円)
※お求めは浜松市内の谷島屋で。

